

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日

平成23年3月15日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4670200544号
法人名	有限会社 川内介護福祉会
事業所名	グループホーム 川内森の里
所在地	鹿児島県薩摩川内市中郷町6956番地49 (電話) 0996-27-6568
自己評価作成日	平成22年12月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kagoshima-kaigonet.com/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成23年1月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の介護度や日常生活動作レベルに応じた生活援助及びケアを行い、地域の人々との触れ合いをメインにする中で、看護・介護のより良い向上の為の勉強会や研修に参加し、スタッフ一同より良い介護を支援出来るよう努力していきたいと思えます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

薩摩川内市街地から国道267号東郷バイパス沿いに「川内森の里」がある。木のぬくもりが感じられるホームは大家族の家のようなあたたかい雰囲気がある。国道沿いではあるが一段高い位置に建てられているため騒音もなく、ホームから川内川河畔を眺められる。春には山桜の花見もホームの庭から楽しめるなど自然環境にも恵まれ、四季を感じることができる。運営推進会議を通じて地域との関わりが密になり、生き生きサロンや地域行事への参加、ホームでの餅つき大会など地域の理解と協力が得られるようになり実現に至っている。また、他者との交流という課題を取り入れた地域密着型サービスとしての介護計画を個々の身体状況に応じて作成し、なじみの人や場との関係や地域との関わりを支援している。開設して10年目になり、今後は地域貢献の取り組みも検討している。代表者、管理者、職員のケアに対し前向きで真摯な様子が伺われるこのホームは更に質の高いサービスと地域に密着したグループホーム運営が期待される。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	地域密着サービスという理念を作りあげ掲示し、常に共有そして実践している。	地域密着型サービスとしての意義を踏まえた理念を作成している。ホール、事務所に掲示している。職員会議などに理念について話し合うこともあり、理念に沿ったケアの実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	当施設の理念に基づいて事業所自体が地域の一員として地域の方々との交流を大切にしている。	運営推進会議を通じて地域との交流が密になり、地域の「生き生きサロン」校区の行事などに参加している。ホームでの餅つき大会も地域の方々の協力で実現でき、地域の花見の招待やボランティアの三味線同好会が敬老会にきてくれるなど交流が深まっている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	事業者は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法と、民生委員の方々の協力を仰ぎ高齢者への働きかけに努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者サービスの実際・評価への取り組み状況などの報告・意見交換を行いサービス向上に努めている。	民生委員、自治会長、家族、利用者、職員、行政などの参加を得て2カ月に1回開催している。多方面からの意見やアドバイスなどもらい、安全対策やサービス向上に活かしている。餅つき大会の開催や災害に対する自主訓練など地域の協力をもらいながら行うなど運営に活かされている。	

鹿児島県 グループホーム川内森の里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>2カ月に一度の運営推進会議でサービスの取り組み状況などを報告し、運営上の疑問点など市町村担当者と連絡を取り合い協力関係を築いている。</p>	<p>日頃より、連携を図り、協力関係を築くように努めている。近隣の市職員が立ち寄ることもある。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>代表者・全職員が身体拘束について理解しており身体拘束をしないケアに努めている。</p>	<p>外部研修後の研修報告や職員会議などで機会を捉えては身体拘束について話し合っている。日中は施錠などせずに安全で自由な暮らしを支援している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待防止関連法について今のところ学ぶ機会はないが、事業所内での虐待に関しては、見過ごすことのないよう努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>当施設では、今のところ該当者がいない為実施していないが、今後、勉強会などで学ぶ機会を持ち、それらを活用できるよう支援していきたい。</p>		

鹿児島県 グループホーム川内森の里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>利用者のご家族に十分な説明をし、理解のもと納得され契約、解約を行っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>各部屋に、利用者家族等が要望等記載できるようノートを設置し、運営に反映できるようにしている。</p>	<p>日常の面会時や毎月の利用料支払い時に管理者、職員が家族から意見、要望を聞き出すようにしている。出された意見、要望については職員全員で話し合って運営に反映させている。利用者からは日常の会話の中で意見、要望を引き出すようにしている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>意見や提案がでた場合は、会議で取り上げ話し合い、運営に反映させている。</p>	<p>職員間で共有すべき内容については朝夕の申し送りを利用して利用者の情報の共有を図っている。毎月の職員会議などで意見交換を行って運営に反映させている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>代表者は、職員個々の努力や実態、勤務状況等把握し、職場環境整備に努めている。</p>		

鹿児島県 グループホーム川内森の里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修等への参加を積極的に推奨しており、研修記録をとり、会議で報告している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>現在は、北薩地域のグループホーム協議会に入会しており、勉強会などにも積極的に参加している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常会話の中で聞きのがす事のないよう勤め、聞く機会などをつくり受け止め、信頼関係の向上に努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分に話し合う機会を持ち、関係づくりにつとめている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人が必要としているサービスを見極め対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の今まで過ごしてきた生活環境で得た知識などを活用出来る場を提供し、共に行い関係を築いている。		

鹿児島県 グループホーム川内森の里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の今まで過ごされた生活暦の中で得た知識を共通しつつ、本人と家族の絆を大事にしながら共にやっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の馴染みの人が、気軽に面会できる様な環境作りや、馴染みの場所に出掛けたりしている。	利用者の友人の面会も気軽にできる雰囲気作りに配慮している。日常の会話の中で自宅やお寺など行きたい場所の希望が出ることもあり、可能な限り対応できるように努め、なじみの人や場との関係継続の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の間人間関係を把握しつつ、全ての利用者に関わり合い、支え合える場を作り支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も職員が面会訪問し、利用者・家族との関わりを大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入所時のアセスメント時に、ご本人の今までの暮らし方、今後の希望、意向等を家族に確認し、ご本人の意向、思いが実現出来るように対応している。	日常会話の中から思いや意向を把握し、本人本位に検討している。聞き取りが困難な場合は表情、言動などから把握するように努めている。視線を合わせた対話を心がけて不安材料や思いなどを聞き出し、安心して生活できるように配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメント時に、これまでの生活暦又は、今までどのようなサービスを利用されたかを確認しつつ、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の暮らしの中で、出来ること出来ないことを把握し、出来る事を継続出来る様、自立支援に向けての対応している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス時等に、本人がより良く暮らす為の課題とケアの在り方について本人、家族と必要な関係者と話し合い介護計画を作成し、その内容の評価を行い、次の計画へと繋げている。	本人、家族の思いや希望、得意分野、職員の意見など反映した本人本位の介護計画を作成している。地域密着型サービスとして、地域との交流にも取り組み、「生き生きサロン」や地域行事参加などを取り入れた介護計画も作成している。モニタリングを毎月行って現状に即した介護計画を作成している。	

鹿児島県 グループホーム川内森の里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践を記載された介護記録支援経過の情報を共有し、ケース会議等で実践や介護計画の見直しを検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族からの要望があれば対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2ヵ月に一回開催している運営推進会議又は、消防署と一体化しての消防訓練等で地域資源との協働を図っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族からの意見希望を聞き、納得が得られたかかりつけ医と事業所との関係を築きながら、適切な医療の提供をしている。	本人、家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。職員の看護師を中心に利用者の健康管理とかかりつけ医との連携を図っている。	

鹿児島県 グループホーム川内森の里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常時看護師が勤務し利用者の日常の健康管理に努め又かかりつけの病院の医師、看護師との連携を図り適切な受診、看護が受けられている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、病院関係者と情報交換をし、連携を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、ターミナルケア及び看取りについての説明を明細に家族に説明している。又、入所後病状が重度化した場合、今後の方向性に向けて家族と再度話し合うきかいをもっている。	重度化や終末期に向けたホームの指針を作成して入居時に家族の希望を聞いてホームの方針を説明している。身体状況に応じて医師を交えて家族と話し合いをしており、記録に残している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師が中心となり、応急看護に関するビデオや資料など参考にしたり、講習に参加したり対応に備えている。		

鹿児島県 グループホーム川内森の里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防火訓練を行っており、地域の消防団の協力も得、又運営推進会議時に自治会長・民生委員の方に、災害時の地域の方の協力もお願いしている。	昼夜間想定避難訓練を行っている。地域との協力体制も話し合われており、通報システムも設置している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけの対応をしている。	施設長、管理者が中心となって声かけや対応について話しており、職員の資質の向上に向けて取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意志意向を尊重し、理解出来る範囲での説明を行うことでの自己決定の支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の意志意向を尊重し、生活支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	本人又は家族が望む場合、理容・美容は、行きつけの店に行けるようにし、通常は本人の希望に応じて適宜散髪をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好や季節の物を取り入れたり、献立の工夫もしている。又、利用者が出来る事は協力してもらっている。	家庭菜園での収穫や調理を職員と共に行ったり、利用者の嗜好に応じた献立を取り入れて食事を楽しむことのできる支援を行っている。また遠足や花見の際は外食を楽しむこともある。	

鹿児島県 グループホーム川内森の里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人一人の嗜好や食事量・食事形態を考慮し、1日の食事・水分量は、記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の口腔衛生と感染症予防の為にケアに介入し、利用者のADLレベルや精神状況に応じた対処をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排尿パターンに応じてトイレ誘導及び介助を行い自立に向けた支援を行っている。	排せつチェック表を作成して個々の排せつパターンを把握し排せつの自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の排泄回数や量を毎日記録。食事・水分量に付加し、腹部状態をアセスメントし、一人一人に応じた排泄援助を行う。		

鹿児島県 グループホーム川内森の里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	利用者一人一人のペースやADLに応じて入浴援助を行う。職員の都合に合わせて順番を決めがちだが、体調の変化や拒否も考慮して介入している。	基本的には週3日であるが希望があれば毎日の入浴も可能で個々に応じた入浴の支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の精神状態や入眠パターン・午睡の有無や臥床時間をアセスメントした上で声かけ誘導・補水及びトイレ誘導介助等の援助を行う。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の疾患と薬効とを把握し、嚥下や精神状態に応じて予薬援助す。又、副作用の有無や拮抗作用を理解した上で、スタッフへ指導している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ドライブ行事への参加・買物等で気晴らしの支援をし生活リハビリをする中でのご本人の能力と活かした役割作りを支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は庭でのお茶やレクリエーションをし又戸外への散歩と試み又生き生きサロンに出かけることで、地域の人々と協力しながらの支援とする。	日常的には散歩、畑仕事、ドライブなどで戸外に出かけられるように支援している。また、花見や遠足、お祭り見学、花火大会、運動会見学などの年間の計画もたてている。ドライブがてらクリスマスイルミネーションを楽しむこともある。	

鹿児島県 グループホーム川内森の里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>日常のお金の所持は紛失やトラブルを避けるため、施設側で管理している。又、遠足時等、買物の楽しみで支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>本人の希望があれば家族に電話をしたり、手紙のやり取りは、可能な限り支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共同の生活空間は利用者が落ち着けるように不快な音（テレビのボリューム）日光等が直射しないように配慮し、又、季節の花・掲示物等の工夫をし、ゆったりとくつろげるような空間作りを支援している。</p>	<p>共用空間のリビングは山小屋風で天井が高く、木のぬくもりが感じられる。芝生の庭に面してソファが置かれ、川内川が眺められる。利用者はそれぞれお気に入りの場所でくつろいでいる。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共同空間の中ではソファ等でゆっくりとテレビ視聴でき、又、気の合った者同士会話出来る様にソファの位置の工夫等している。</p>		

鹿児島県 グループホーム川内森の里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時ご本人の在宅での状況（遣い慣れた物、好物）を聞き、少しでも在宅生活に近い居室空間作りとし居心地良く過ごせるよう、工夫している。	家族の写真、花、飾り物などで本人が居心地良く過ごせるように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人一人が安全に生活出来る様、各部屋の入口に自分の部屋とわかるように写真を設置したり、トイレの場所等の明記をしている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

鹿児島県 グループホーム川内森の里

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

鹿児島県 グループホーム川内森の里

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない